

## 平成21年2月の解説（府県天気予報）

### 【2月の天候状況】

上旬は北日本から西日本では天気が数日の周期で変わりましたが、天気の崩れは小さくなりました。南西諸島では高気圧に覆われ晴れる日が多くなりました。中旬も東・西日本では天気が数日の周期で変わり、中頃に低気圧が発達しながら日本海を通過したため全国的に南風が強まり気温がかなり高くなりました。北日本は曇りや雨の日が多くなり、南西諸島も曇りの日が多くなりました。

下旬は北日本から西日本では低気圧が短い周期で通過したため、曇りや雨または雪の日が多くなりました。南西諸島では晴れて気温の高い日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本で平年より少なくなりましたが、南西諸島では平年よりかなり多くなりました。降水量は北・西日本で多くなりましたが、南西諸島では平年よりかなり少なくなりました。気温はほぼ全国的に平年よりかなり高く、東日本から南西諸島では平年より3以上高い観測地点もありました。

### 【2月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報で84%と例年<sup>(注)</sup>より2ポイント高く、明後日予報で83%と例年より3ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は大半の地方で例年より高く、特に東北、四国、九州北部地方では5から6ポイント高くなりました。明後日予報もほぼ全国的に例年より高く、特に北日本と四国、九州地方では5から8ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は北海道地方で例年より0.4小さくなりましたが、その他の地方はほぼ例年並みで、全国平均では例年より0.1大きい1.7でした。また、最低気温の予報誤差も北海道地方で例年より0.4小さく、その他の地方はほぼ例年並みで、全国平均では例年より0.1小さい1.5でした。

<sup>(注)</sup> 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【2月の天気予報から】

2月9日17時に発表した東京地方の明日10日の天気予報は、「くもり後晴れ、未明雨 多摩西部では未明雪」で、降水確率は、0時 - 6時が50%、6時 - 12時が20%と発表しました。

これは、9日21時に四国の南にある低気圧（図1）が10日朝にかけて関東地方の南海上を通る時に、東京地方の上空に湿った南の風が吹くため降水の範囲が低気圧の北側に広がると考え、10日未明を中心に降水があると予想したからです。

当日の実況では、降水域は予想通りに近畿地方から東海地方まで移動してきましたが、関東地方に近づく未明には、北側へ広がることなく伊豆諸

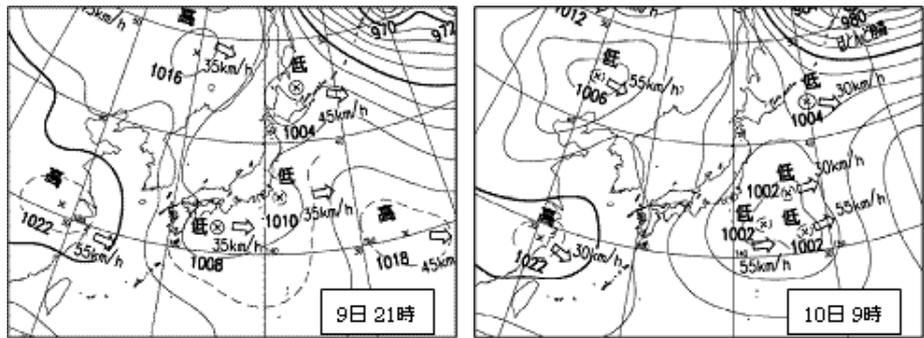


図1 平成21年2月9日21時(左)と10日9時(右)の地上天気図

島が中心となりました(図2)。神奈川県や千葉県では弱い雨が降りましたが、東京地方では、0.5ミリ以上の降水を観測した地点はありませんでした。

この要因として、関東地方では関東山地の影響で降水となりにくい乾いた西の風が続き、上空へ湿った南風が入ることがなかったため、低気圧に伴う降水の範囲が北に広がらず、海上が中心になったものと考えられます。

南海上を低気圧が通過する時、今回の事例のように上空のわずかな湿りや風の違いで、降水の範囲が北に広がらず、関東地方の「雨」の予報が外れることがあります。今後も的確な天気予報が発表できるよう事例解析や調査を行い、予報精度の向上に取り組んでいきます。

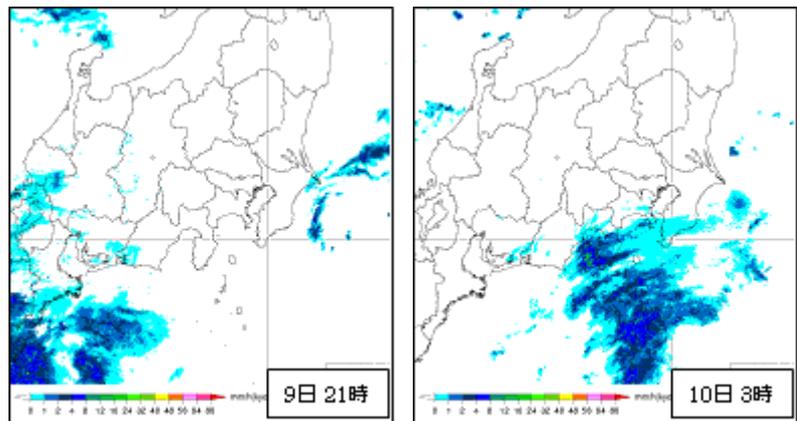


図2 平成21年2月9日21時(左)と10日3時(右)のレーダーエコー図

#### 【4月の天気予報の利用にあたって】

4月は日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過して、天気が概ね数日の周期で変化することが多くなります。高気圧に覆われれば穏やかな春の天候となりますが、低気圧が発達しながら通過する際には突風が吹いて、雷やひょうを伴う大雨が降るなど荒れた天気となります。さらに低気圧の通過後には、冷たい空気が流れ込んで気温が急激に下がることが多く、山岳地帯では吹雪になることもあります。

うららかな晴天に誘われて、レジャーなどで海や山へ出かける機会も多くなります。天気が急変することもありますので、各地の气象台が発表する最新の天気予報などで天気の変化を確認した上で慎重に行動しましょう。